

スマホ・パソコンに関心のある方 ICT サポーターへのいざない

視覚障がい者のデジタル社会への参加促進

- ・明石市視覚障害者福祉協会
- ・姫路デジタルサポート

明石で iPhone 教室開始

11 月から視覚障がい者にやさしい iPhone 教室を始めました。月 2 回水曜日、アスパピア明石北館ウィズ明石にて定期的に開催しています。

どうやって iPhone を使うの？

ツルツルの iPhone をどのように使うのでしょうか。iPhone の VoiceOver という読み上げ機能を使って操作を行います。晴眼者の操作とは大きく異なり、音声案内に対して、指の動き（ジェスチャーといいます）で応えて操作を行います。

操作は、状況に応じて指 1 本から指 4 本を使ったジェスチャーを行う必要があります。複雑です。

なぜサポーターが必要？

今や iPhone やパソコンは視覚障がい者にとって必須の生活ツールとなっていますが、操作が複雑なので独学は困難です。

iPhone 講習会や個別サポートでは、視覚障がいのあるユーザーさんに直接アドバイスを行うサポーターの役割が重要です。iPhone やパソコンが得意な方など、一緒に活動していただける方を募集しています。



iPhone 教室の様子

ICT サポーター募集

私たちと一緒にサポーターとして活動しませんか。サポート方法については研修会などで学習していただきますので、安心して活動ができます。希望される方はメールまたは電話で連絡ください。

- ・明石市視覚障害者福祉協会
Tel: 090-4283-4732 (松森)
- ・姫路デジタルサポート(ボランティア団体)

(姫路デジタルサポート
あてのメール QR コード)



明石 一般向け

iPhone 教室の見学を！

iPhone 教室は、明石駅に近いアスピア明石北館ウィズ明石で行っています。是非、iPhone 教室でのサポートの様子を見学してください。視覚障がいのある方がどのように iPhone を使っているかを知っていただきたいと思います。

視覚障がい者の iPhone の操作方法について YouTube でも紹介されています。



デジタルデバインド

現在、社会のデジタル化が急速に進んでいます。例えば、ワクチン接種証明、各種行政サービスが利用できるマイナポータルなどは、スマホやパソコンの利用が前提となっています。

しかし、視覚障がい者の中で ICT を有効に活用している人は 2 割にも満たないのが実情です。「使える人」と「使えない人」との間の格差が危惧されます。



(姫路デジタルサポートの活動 QR コード)



iPhone で視覚の代行、歩行の補助

iPhone は、電話やメール以外にも、視覚を一部代行する機能、歩行を補助する機能などがあり、便利なくらしに役立ちます。

- ・郵便物の差出人や文書を読み上げます。
- ・薬や各種カードを識別し、薬の処方やカードの名前を読み上げます。
- ・歩行中、近くのお店や施設と目的地までの方位と距離を知らせてくれ、歩行も楽しくなるでしょう。



なぜ iPhone が普及しないの？

iPhone が普及しない理由の一つは、「ICT の使い方を教えてくれるところがない」からです。次いで「iPhone がいかに生活を豊かにしてくれるか知らない」ことです。

「iPhone に乗り換えて、うまく使えるかどうか不安である」ので、なかなか iPhone の購入に踏み切れないようです。